

研究所だより

研究所責任者 武 敏夫

長い事試験的に行ってきました個別の講座も、インターネット上に掲載され、近頃では電話での問合せの数も増えて来ました。但現状では受講生の増加は僅かですが、残念ながら展覧会近くになると、増々欠席者が多くなるのは、研究所独特の宿命的なものでしょうか。そんな中、昨年の決算の時は久々に赤字も出ず、僅かですが黒字を見る事が出来ました。もちろん儉約儉約の毎日でしたが、研究所スタッフの協力のもと、今年も来年も頑張るぞの意気込みでこの達成感を味わいたいと思います。皆様のお力添えを、心より感謝致します。

土曜教室近況

講師 遠山 厚史

元々、会館開放事業の一つとして発足した水彩教室が、月1回の土曜教室となつて3年目となります。

現在では、石田、北島、遠山の3名のローテーションで指導に当たっています。

授業日を忘れてしまう受講生も多いので、大体2週間程前にダイレクタメールでお知らせする等、便宜を図っています。

課題としては、受講生が飽きてしまわない様に毎回のモチーフに工夫をこらす事と、1コマ3時間の講座の中で、制作内容をどのように発展、展開させていくかが挙げられます。



▲ 大作教室 (人物)

研究所に学んで

千葉 宮城 康二

私は今年から研究所の講座別教室に通っており、第1週の人物着衣を少しと、第3週の人物ヌードを描い

ています。

通い始めて今感じている事は、最初に描いた作品と直近の作品を比べ観て、ほくそ笑んでいる自分が居る事です。受講し始めた頃は、モデルさんに自分の作品を観られると、「こんなブサイクに描いてすみません」と心の中で呟いていました。しかし最近ではモデルさんに「観て下さい」と心の中で呟いています。もちろん先生からみるとまだまだと言われると思いますが、しかしながら自分としては一作ごとに進歩していく実感が得られる事が何よりの楽しみです。それもこれも毎回先生方の鋭い(笑)御指摘のお陰だと感謝しています。

今後しばらくは女性モデルを更に美しく描ける様修練を積んで、年明けからは風景画等も含め大作へとチャレンジし、示現会展で入選させて頂く事が私の夢です。

講座には多様なカリキュラムが組まれています。絵に興味をお持ちの方にとって大変魅力的な内容だと思っています。

示現会に多くの方々に参加され、益々御発展されますよう、祈念しています。

◀ 100号を描く

